

# ひながたに見る よふぼく成人の道筋

— 今・自分は・何を・すべきか

## 春季大祭講話 大教会長様

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311

笠岡大教会  
創立110周年

三年千日スローガン  
論達を實踐し、をやの理を戴こう  
本年の實踐項目  
つとめに専心  
百万軒にをいがけ  
全教会で陽気ぐらし講座開催

### 春季大祭の意義

今日は、春の大祭ということで、理のお許しを戴いての本年最初のおつとめです。今日、この日に併せて、しっかりと今年一年の心定めをするところが一番よろしかろうと思えますので、年頭に当たっての思い、そして、今年一年の活動の角目についてご相談を申し上げます。

今日は、春季大祭ということでおつとめをしましたが、この春季大祭の意義は何か。教祖は、五十年のひながたをお通りください、なかなかおぼつかない私たち一人ひとりの成人を少しでも早めるために、二十五年先の定命を縮めて御身をお隠しくださった。今日はその一日、今日はそういう尊い月です。

教祖が御身をお隠しくださったのは、つとめとさづけをもって成人を早めるためですが、どうしてつとめとさづけを急き込まれたのか、教祖の五十年のひながたから考えてみましょう。

### ひながた

「ひながた通らにや、ひながた要らん」と仰るように、ひながたは、よふぼくが目指すべき「成人の目標」です。

ひながたの道を、教祖は五十年歩まれ、私たちには、五十年ではなく、その内の千日歩めばよいともお聞かせいただきましたが、そのひながたはどういうものなのでしょうか。

考えてみると、よふぼくにとつてだけではなく、私たち人間にとつて大切な角目も、ひながたによつて教えていただいております。

よふぼくとしての成人目標というだけではなく、全ての人間が歩むべき道筋としてのひながたであり、また、私たちよふぼくは、それに照らし合わせてどう歩むべきかということを思案しなければなりません。

天保九年十月二十六日、親神様が教祖のお身体に入り込まれて、「月日のやしろ」とお定めになられた、その日から、ひながたが始まりました。

「月日のやしろ」になられてからは、先ず、貧のどん底に落ち切られました。それは、豊かな家庭でありながら、周りにいる貧しい人々をたすけてやりたいという思いからでしたが、貧のどん底に落ち切るということだけではなく、そこに大きな目的がありました。

それは、「貧に落ち切らねば、貧しい者の気持ちが分らない」ということもあつたでしょうが、貧に落ち切ることによつて心のほごりを捨て去つたならば、自ずと「この世が、親神様の御守護の

世界である」ということが判って、心に明るさが生まれてくるということをお示しくださったということです。

次にお示しくださったのは、こかん様を浪速布教に出されたにいがけです。

やがて、をびやだすけによって御守護を現わしたださるようになってからは、教祖の許に集まってきた大勢の人々におつとめを教えると同時に、その人々の中から教祖の思いに適った人々におさづけをくださるようになりました。

そして、つとめとさづけを急ぎ込むために御身をお隠しになりました。

### よふぼく、成人の道筋

教祖のひながたは、その一つひとつに示された意味合いを思索しなければなりません。

心のほこりを捨て去ると、親神様の御守護の世界に気付き、生かされる喜びに目覚めるということとを、「貧に落ち切った姿」によって現わしてくださったと申しましたが、それでは他のひながたには、どんな意味合いが込められているのでしょうか。

#### ①よふぼくになる

私たちよふぼくが歩むべき目標を、一つひとつ

教祖のひながたに照らし合わせて思索すると、

たんく／＼とよふぼくにてハこのよふを

はしめたをやがみな入こむで 十五号60

と仰るように、私たちがおたすけをする上においては、親神様・教祖が私たちに入り込んで働いてくださるので、「入り込む」ということに関して考えれば、教祖が「月日のやしろ」になられたということが、私たちは「よふぼく」になったということになると思います。

#### ②心の欲を捨て去る

それでは、よふぼくにならせていただいて、先ず何をすべきかということになりますと、前述のように「貧に落ち切る」——心の欲を捨て去る——ということが大切な角目になってきます。

よふぼくになると、つくし・はこびをしますが、それらの一つひとつが私たちの心のほこりを払う手立てになってきます。

ところが、一生懸命つくしているのに、全然心に明るさが生まれてこない、御守護の姿が見えてこないということもあります。これは、そのつくしが、果たして欲を捨て切る姿になっているのか思索しなければなりません。

これだけすればこれだけ御守護がいただけとか、御守護をいただくためには……:…:ということをやっていたのでは、本当に心のほこりを払うということにはなり得ないのではないのでしょうか。

「さあ、今月はをしいのほこりの心を御供させ

ていただきます」というような気持ちでつくし、はこんで、意識的に心のほこりをしっかり払わしていたら、心が澄み切って自ずと心に明るさが生まれてくるのではないのでしょうか。

#### ③ひのきしん・にをいがけ

そうして心に明るさが生まれてきたなら、次に何をするかと申せば、「浪速布教」を通してお教えいただいたにをいがけです。

それでは、このにをいがけとは何かと考えてみると、

ひとことはなしはひのきしん

にをいばかりをかけておく

と仰るように、にをいがけはひのきしんです。

心に喜びを抱いたらひのきしんをしなさいと教えてくださったのが、この「浪速布教」ではないのでしょうか。

ひのきしんということになれば、いろいろと方法があります。ゴミ拾いもボランティア的なものもひのきしんでしよう。

しかし、一番理の重いひのきしんの姿はにをいがけであるということで、昨年は「百万軒にをいがけ」というひのきしんに繋がってきたわけです。

昨年のように躍進地方講習会で、「世界だすけ」・「ひのきしん」と仰っていただきましたが、正しく、ここに大きな理があるのです。

ですから、欲を払って喜べるようになればひのきしんをさせていただくことが大切で、そのひの

きしんの最たるものはにをいかけである、ということですが。

#### ④つとめとさづけ

こうして、ひのきしん・にをいかけをしていると困っている人が目に付いてくるはずですが。

そういう人々におさづけのお取り次ぎをさせていただく、ひのきしんが理作りになって不思議な御守護を頂戴できるということに繋がってきます。

おさづけは、自分が救け主ではなく、親神様・教祖がよふぼくに入り込んで働いてくださいます。私たちよふぼくのつとめは、お話を聞き取り次ぎし、おさづけを取り次ぎさせていただくことであって、そのことよってたずかるかどうかは、親神様のお心次第なので、私たちは、何も心配せず、しっかりと話を聞き取り次ぎし、おさづけを取り次ぎさせていただいたら、よふぼくとしての使命は果たされたということになります。

そうする中に、私たちの真実・助けられる人の真実・私たちの理作りをお受け取りくださって、不思議な御守護を見せていただけるのです。

#### ▼御恩報じの道

しかし、助けていただいて、「助かった！」と喜んでいただけでは、ひながたを通じたことにはなりません。大切なのはここです。ここで済んだのでは、道が付いたことにはなりません。

やはり、教祖が不思議な御守護を現わされて、助けられた人々が、「御恩返ししたい」と言うて教祖の許に集まってきた、御恩報じの道を教えてくださいましたからこそ、道が付いたのです。

しかも、大和事件に示されるように、助けられたにも拘わらず、大勢の人々が離れてしまった

—— 助けられた人々の試しをされています。もし、その時、真実に御恩返しをしたいという人が残らなかつたら、今のこの道は付いていません。

つまり、単に不思議な守護を現わされたからだけではなく、むしろ、御恩報じをしたいというて集まった人々の真実が見定められて、初めて道が付いたのです。

こうして考えると、今、私たちが信仰しているこの道は、大きな御守護を戴いた私たち人間の方から、御恩報じの道として付けていただいた道だと言えるのではないのでしょうか。

この道は、「御守護を戴く道」ではなく、大きな御守護を感じているからこそ歩ませていただく「御恩報じの道」だということをしっかりと思案させていただきたい。

その御恩報じの方法として教えていただいたのが、つとめとさづけでした。

つとめ場所の普請が済み、御恩報じをしたいというて集まってきた大勢の人たちに「さあ、人さなたすけなされや」と人だすけを教えられました。御恩報じの方法は人だすけだと教えられたわけ

です。

#### ▼因縁納消の道

それでは、なぜ、おつとめを急ぎ込まれたのでしょうか。

今、心一つの理にかしもの・かりもの御守護を戴いて、私たちは、こうして生かしていただいておりますが、本当に十全の御守護を頂戴できるような心の姿なのでしょうか。

私たちの心一つの理は、人間創造の時から生まれ変わって今日があると聞かせていただきますが、その生まれ変わりする人間の歴史は、戦争の歴史・人殺しの歴史であるということを考えてみれば、私たちは、今、どれほど深い因縁を持っているか判りません。

澄み切った心一つに十全の御守護を戴いてこそ陽気ぐらしができるのであって、もう既に十全の御守護を戴けないような心の姿があるのではないのでしょうか。

親神様の御守護に変わりはありませんが、私たちが御守護いただけないような魂を持っているというのが現実ではないのでしょうか。

そうした中で御守護を現わしていくためには何が必要かということ、**「元の理」**の理を現わすためにおつとめが必要になってきたわけですが。

御守護いただけないような私たちを少しでも守護してやりたいという思召からつとめというものが必要になってきました。

法律よりも何が大切なのか？ 御守護が大切だ。人間、生きていなければ法律さえもない、生きるの方が何より大切か、御守護いただくことの方が大切ではないか。だから、つとめをせよと急ぎ込まれました。

「神様の御用」としてではなく、「私たち自身が御守護を戴く手立て」として、おつとめを教えてください。くださったのです。

おつとめをつとめさせていただいているからこそ、少なくとも、今日、私たちは、こうして結構に御守護を頂戴して、置いていただけるのです。

しかし、因縁が深いので、「済まんが、一つ二つは、今生、因縁を見てくれ」と身上・事情に見せていただいております。もともと御守護いただけないような深い因縁を持っていることを考えれば、一つや二つ見せていただく因縁は、ホンの些細なことです。

むしろ、それさえも、「親神様の大きな親心あればこそ生かしていただいているという今の姿」から「何もせず放つて置いても十全の御守護を頂戴して陽気ぐらしができるという姿」に立て替えてやりたいという親心で見せていただいている身上・事情なのです。

確かに、身上・事情は苦しい。それは、お互い様です。しかし、それさえも、たすけてやりたいという大きな親心で見せていただいている姿ですから、むしろ、そのことによって、少しでも因縁を納消し、御恩報じをさせていたかどうかと思案す

る、その歩みが大切なのです。

身上を御守護いただくことも、もちろん大切ですが、それを通して御恩報じをすることが大切だからこそ、つとめをしなければなりません。

#### ▼おさづけの取次

また、つとめを急ぎ込まれたのと同時に、教祖お一人だけで人をたすけるのではなく、よふぼくを作り、その一人ひとりに入り込んで世界たすけを早めたいという思いから、御身をお隠しになられたのです。

ですから、私たち一人ひとりがしっかりおさづけを取り次がせていただくということが、教祖が働きやすい環境を作ることになるわけで、親神様・教祖にお働きのいただき十全の御守護をお見せいただくためには、おさづけを取り次がせていたかなければ、働きようがありません。

教祖は、私たちに入り込むために御身をお隠しなされたのです。私たちがたすけるのではないのですから、安心しておさづけを取り次げばよいのです。

よく、「自分は徳がないから御守護がない。」とか「わたしのおさづけは効きません。」とか言われますが、そんなことは関係ありません。そういうのは、逆に、こうまんです。自分がたすけると思っているからそう思うのです。自分がたすけるのではないので、こうまんの心を捨てて素直におさづけをお取り次ぎさせていただいたら、それで

よいと思います。

このことを思案して、今年一年の働きの角目とさせていただくことが、今日一日の春季大祭の大きな意義だろうと思います。

#### ⑤ 共に御恩報じの道を歩む

この道は、不思議な御守護を戴いただけで付いた道ではありません。

日々のおたすけで、御守護いただいで喜ぶだけではなく、それを一つのきっかけとして一緒に御恩報じの道を歩むことが、ひながたを歩む最後のつとめになってくると思います。

自分がおたすけをするだけでなく、それによって助かってもらった人々に、少しでも「一緒に御恩報じの道を歩もう」と共に歩む道を教えていくことが大切だと改めて申し上げたい。

ともすれば、「御守護いただいでよかった」だけで済んでしまっているのが、今のお道の姿ではないでしょうか。むしろそこから、御恩報じとして共にお道をしっかりと歩んでいくこそが、ひながたに示される一番大切な角目であると心に置かしていただきたい。

#### ゆっくり一歩ずつ歩もう

現代はスピード時代・インスタント時代ですが、誰も一足飛びに成人できるものではありません。

お互いまだまだ因縁が深いので、じわじわと

ゆつくりと、年限掛かっても成人させていた、  
ことも大切ではないかと思ひます。

学校のスピード授業に着いていけない生徒は、  
いじめや登校拒否・おちこぼれになりやすいかも  
知れませんが、この道は、成人に着いていけなく  
ても、スピード時代だからこそ、逆に腰を据えて、  
じんわりと成人の歩みを進めることが必要なので  
はないかと思ひます。

### 今年はどういう一歩か

昨年、にいが掛かろうが掛かるまいが、と  
にかくひのきしん・にいがけという事で、“百  
万軒にいがけ”。これが先ず、成人の第一歩だっ  
たわけです。

何十年もおたすけをされている人から見れば、  
物足りないと思われる方はたくさんおられるで  
しょうが、よふぼく、一人ひとりが成人していこう  
と思えば、「さあ、着いてこい、着いてこい」と  
成人を促しても、なかなか成人できるものではあ  
りません。ですから、お互いに手を取り合つて、  
ゆつくりと一歩ずつ成人していこうということ  
で“百万軒にいがけ”もあつたわけです。

ということ、皆さん方、一歩、成人させてい  
ただきました。

今年、それに加えて、“つとめに専心”、“百万  
軒にいがけ”、“全教会で陽気ぐらし講座開催”  
—— これをもつて、昨年よりも一歩前進した

成人の歩みをさせていた、と申し合わせたい  
と思ひます。

“百万軒にいがけ”は昨年と一緒です。

「百万軒は達成できたから去年と同じ数でよか  
ろう」でもよいでしょう。「今年は数を増やそう」  
というのもよいでしょう。よふぼく、一人ひとりが  
動くというのが旬の御用ですから、「私は動いた  
が、今年はある人を誘つて一緒に歩こう」という  
のも、今年の一つの成人に繋がってくるのではな  
いでしょうか。

それと同時に、昨年は「声は掛けなくてよい。  
ポストに入れるだけでよい。」と申しましたが、  
今年は一歩前進して、声を少し掛ける機会を設け  
たらどうかということ、陽気ぐらし講座開催”  
ということ、です。

この「陽気ぐらし講座」は、講師の先生もいろ  
いろとおられるので、天理教の布教に限ったこと  
ではなく、天理教の話を交えずに「この世はどう  
いう素晴らしい世の中か」ということをどうと  
うお話しくださる方もおられます。ですから、お  
道とは関係ない人も誘いやすいと思ひます。

お話だけではなく、歌手や手品師も講師として  
御本部の方で用意しておられますので、気軽に声  
を掛けるきっかけにしたいと思ひま  
す。

せっかくにいがけに出て、なかなか、「天

理教です」とは声を掛けにくいかも知れませんが、  
開催会場は、教会ではなくても、各個人宅でも公  
民館でも市民会館でも結構ですので、「今日、み  
んなで会話をしよう」とか「ちよつとした集まり  
があつて、歌手が来て歌つてくれるのよ。手品が  
あるのよ。どう？」とか言つて声をかけるきつ  
けにしたらよいと思ひます。

最近では、インターネットやEメールで世界中  
に顔が見えない友だちを作つておりますが、その  
反面、生きていく上で一番大切な自分の身の回り  
の人との関わりが疎遠になつていのが現実では  
ないでしょうか。

「百万軒にいがけ」で声を掛けるということ  
は、この一番大切な、今、自分が生きていける身の  
回りに知り合いを増やしていくということにも繋  
がつてくると思ひます。

ということ、しつかりと声を掛けていた、だ  
い「陽気ぐらし講座」を開催していただきたいと  
思ひます。

もう一つ“つとめに専心”という「つとめ」は、  
今日申しましたように、私たちは御守護いただけ  
ないような中を御守護いただくためのおつとめ  
を、教えられた通りにつとめさせていた、ま  
た、それに近づかせていただくことも大切だろ  
うと思ひますので、しつかりおつとめの練習などを  
して、おつとめが充実するように、今年一年つと  
めさせていた、だいたいと思ひます。

## 春季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に 会長 上原理一 慎んで申し上げます 親神様には 一列子供の陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召から この世と人間をお創造になり 長の年月かけてお育て下さいました しかるに その親心が分ならず 我が身勝手に暮らす状をご覧になり 「月日にはたんくみへるみちすぢにこわきあふなきみちがあるのだ」と思召され 教祖を月日のやしろとお定めになり これの世界たすけの道をおつけ下さいました 私共は教祖を通してお示し頂いた陽気ぐらしに向かう 「ひながた」を辿るべく 日々心のほこりを払い ひのきしんに励み お教え頂いた通りにおつとめを勤めおさづけのお取り次ぎを通して たすけ一条の上に邁進させて頂いております その中にもこの月は 教祖が一列子供の成人をお促し下さる上から 二十五年先の定命をお縮めになり 御身をお隠しになられた尊い月に当たりますので 只今からおつとめ奉仕者一同 心を正し 親の思いに添い切つて 明るく陽気に勇んで 座りづとめてをどりをつとめて 春の大祭を執り行わせて頂きます

御前には 今日の日を楽しみに 寒さ厳しき中を厭わず寄り集い 季節の雪解けと共に人々の心の雪解けをもち待ち望む皆の真実の状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて 本年 年頭に当たり 真柱様より 「昨年は 諭達巡教やようぼく躍進地方講習会を実施して よふぼく一人ひとりが動くことを願ったが 今年はお互いよふぼくであることやそれぞれの持ち場立場を自覚して 昨年の講習会が無駄にならないよう活動を進めて欲しい」との思召をお聞かせ下さいましたので 笠岡に於きましては 昨年の百万軒にをいがけ達成の実績をふまえ 創立百十周年に向かう三年千日の二年目に相応しく 更なる実動の年と位置づけ 一、つとめに専心 一、百万軒にをいがけ 一、全教会で陽気ぐらし講座開催を実動の柱として申し合わせ 世界たすけに邁進させて頂く覚悟でございます

又 昨年は 成人鈍い私共に関わらず 初席者 百七十一名 おさづけ拝戴者 七十八名 修養科修了者 四十二名 教人登録者 一九名の御守護を戴き 誠に有難うございました 今年 新たに 初席者 二百名 おさづけ拝戴者 百十名 修養科修了者 五十名 教人登録者 三十名を心定めさせて頂いて 今年の実動が 心定め完遂の理作りになるよう 皆の心を一つに揃えて 明るく勇んで勤めさせて頂く所存でございます

何卒 親神様には 御恩報じを念じ たすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に 自由の御守護をお現し下さり たすけ心の真実が世の人々のたすけ心をも呼び起こして 一列の子供が睦び助け合う 陽気ぐらしの世の状に 一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

それと同時に、それぞれのつとめ  
—— 教会長、役員、よふぼく、信者  
…… それぞれの持ち場立場があり  
ますが、その持ち場立場のつとめ  
—— もいろいろあると思いますが、  
それを言われたからするというので  
はなく、自ら求めてさせていた、  
ということも、この「つとめに専心」  
ということに繋がってくると思いま  
す。

これらの一つひとつをお互いに歩  
み切らせていただくことよって、  
また一つ、去年より一歩成人した姿  
を、私たちは作らせていただいて、  
親神様・教祖にお喜びいただくこと  
ができるのではないかと思います。  
どうぞ、皆さん方、できない人が  
先ずしつかり動いていこう、また、  
少しできる人も一緒に動いていこう  
ということが、一つの大きな旬の動  
きではないかと思えますので、でき  
る方はどんどんやってみてください  
構です、そういう人たちは、どんど  
ん引つ張って行っていただければと  
も思いますので、宜しく願います。

大教会だより

II 辞令 II

立教163年 1月21日付

◎登用

雅楽奉仕人 今川昌彦

藤井保人  
佐本正悟  
藤多正悟

◎立教163年 定期巡教表 訂正

久松中	久松中	久松中	久松中	久松中
津中	津中	津中	津中	津中
2月	2月	3月	2月	3月
武内清	武内清	武内清	武内清	武内清
佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝	佐藤道孝
中村邦義	中村邦義	中村邦義	中村邦義	中村邦義

◎教会長資格検定講習会修了者

後期 立教163年 1月19日終講

芳井 杉原 ひさの  
稲瀬 三宅 幸恵



第 7 0 7 期 修 養 科 募 集 要 項

\* 修養科期間

立教163年 3月1日～5月27日

\* 教 養 掛

3ヶ月間	中村 剛	(大教会役員・久松分教会長)
1ヶ月目	横山 逸郎	(東城分教会長)
2ヶ月目	山成 友司	(稲富土分教会長)
3ヶ月目	佐々木 滋	(福廣分教会長)

\* 募集要項

- ・志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、29日の昼食後に解散。

\* 教 科 書 (必須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふばく手帳』。

\* 参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

\* 携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

\* 服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別席願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○	○	・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本部 御供	○	○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後におさづけの理を拝戴する者のみ。
「おはなし」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○	○	
本部 御供	○	○	
「修養科入学願」	○	○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」	○	○	
修養科入学御供	○	○	
「住民票」または「戸籍抄本」	○	○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

# 前会長様・老奥様 五年祭執行

去る一月三十日、大教会祖霊殿にて、四代会長・故上原郁雄大人、三代會長夫人・故上原くにゑ刀自の五年祭が執行されました。

祭主の島村廣義先生(大教会世話人)は、午前十一時、総勢二十七名の衆人の奏樂に誘われ、祭官を従えて入場されました。

参拝者は、縁りある芦津大教会長様(御名代)、玉島大教会長様を始め、上原家族・親族四十名、大教会役員、部内教会長ら八十名が集い、奏上される祭詞に心を傾けました。

老会長様と共に笠岡教団の繁栄をお導きくださった老奥様、その後を引き継がれて、部内の隅々

にまで丹精の親心を

お注ぎくださいました前會長様、

それぞれの靈様の前に、一代をお導きいた

た旧い教友たち、また、これからの道を担う若い人たちも共々に感謝と誓いの祈りを捧げたことでしょう。

なお、足下の悪い中、また遠路、ご参拝くださった皆様方、接待・奏樂のひの



きしんに当たってくださいました皆様方に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

◎祭官  
祭主 島村廣義 先生  
指図方 武内 清

扈者 田中一之、岡本久善、中村邦義、佐藤道孝

◎楽人(雅鶯会)

主管以外は順不同

鞆鼓 佐藤みちよ、太鼓 黒瀬修式、鉦鼓 今川昌彦、箏 虫明立生、笙 掛谷宣和、笛 藤井正仁、

筆 籟

龍 笛

高島寛、猪原啓介、森本重吉、森本忠善、猪原啓文、田中隆之、枝廣隆文

◎神殿墓地関係

山野弘実、渡邊孝信

◎受付並に恩草

神事部

◎接待

◎御親族関係

矢田哲一、高橋徳行、余村誠治、中島誠治

◎記録・写真

岡崎和夫、岡崎真一

◎御親族送迎

青年会

◎役員・部内教会関係

岡崎和夫、岡崎真一



立教163年3月28日

**春の学生おぢばがえり**

友とおぢばへ — をやに心をつないで —

本年も3月28日に「春の学生おぢばがえり」が開催されます。これは、道につながる全ての学生が年に一度おぢばに帰り集う日であり、真柱様より直々に道の学生にお言葉を戴く機会でもあります。

教祖が真柱様を芯としてよふぼくを使って推し進めくださる、陽気世界ふしんの道筋を考えると、真柱様が学生に対して年に一度お話しくくださるお言葉を、学生自身が「春の学生おぢばがえり」に参加して聞かせていただき、その思いを身に治めることは、必ず陽気世界ふしんの歩みを早めることにつながると信じます。

この「春の学生おぢばがえり」は、一人ひとりの信仰を深める場、合わせて道の同世代の仲間と親睦を深める場としても意義付けられています。

「春の学生おぢばがえり」への参加は、各教区が企画している団参をご利用いただきたいと存じますが、諸般の事情により教区からの団参に参加できない方は、直属（笠岡大教会）の学生担当委員会でもお世話どりさせていただきますので、ご遠慮なくお申し出ください（興明分教会：吉岡誠一郎まで）。

また、笠岡の学生担当委員会が企画している「直属アワー」では、大教会長様より親しく学生へお話をしていただき、その後は「焼き肉」や「ボーリング」で笠岡につながる学生同士の親睦をはかっていきたいと思っております。

「笠岡」からは例年25名くらいの参加者ですが、大教会につながる学生の数からいうと、まだまだ声が行き届いていないように思われますので、例年に増してのご丹精をお願いいたします。

笠岡学生担当委員会 委員長 吉岡 誠一郎

【内 容】 3月28日（教区によっては、前後日に関連行事があります）

行 事 名	時 間	会 場
式典「真柱様お言葉」	午前9時	本部中庭
直属アワー 〈別席〉	午前11時～	笠岡詰所 他
後 夜 祭	夕づとめ後	東西泉水プール前広場

## むつみ鼓笛隊 春の鼓笛講習会 開 催 要 項

今年はこどもおぢばがえりのテーマが変わり、御供演奏曲も変わります。一人でも多くの子どもたちに参加していただき、楽しい講習会をさせていただきたいと思っております。

日 時 平成12年3月31日（金） 午前 9時半 受 付、10時 開講式、  
～4月 3日（月） 午後 2時半頃 解 散。

参加御供 2,000円。

携行品 担当の楽器、着替え、洗面具、筆記具、帽子、防寒着。

（おやつはこちらで用意します）

# 婦人会創立90周年記念 第82回総会

## 式典

立教163年4月19日(水)  
午前9時30分・本部中庭

## 記念行事



### 一手一つ喜びのパレード

日時：4月18日 夕づとめ後  
コース：真南通り → 南礼拝場前 → 第2食堂前 → 東筋



### 講演会

日時：4月19日 12時30分  
会場：  
• 第2食堂・第3食堂会場  
• 東講堂会場  
• 東右第1棟講堂会場  
• 天理市民会館会場  
• 天理大学杣之内第1体育館会場

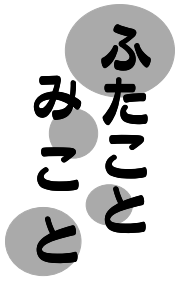


### 写真展

期間：4月16日～26日  
開場時間：午前9時～午後4時 但し  
会場：東左第3棟1階  
18日=教祖誕生祭祭典後～  
19日=総会式典後～  
26日=月次祭祭典後～

## 全会員こそぞっておちばへ

教祖御誕生祭団参 4月17日(月)～20日(木)  
婦人会各ブロックからも、バス団参を企画しております



「うアア、また一杯じゃー」「あつこが空いとるでー」「いけナア、また入ったで」教会近くの食料品スーパーでの私と家内の毎回の会話。このスーパー、広告は一切出さない。その分、値引きをしているのか、他店と比べて全品かなり安い。最近、遠方からの買物客も多く、駐車場を確保するのも大変だ。重い荷物を持って歩きたくないのが人の常。少しでも店の近くに停めたいのだが、車が多くてそうはいかない。遠くに停めざるを得ないのだ。しかし、必ず店の真前に駐車している奴がいる。この店では、ここに停めると出る車が出にくくて苦勞するのだ。「我さえ良くば今さえ良くばの風潮に流れー」と諭達第一号でお論し頂いている。人事ではないナ！と思う日々だ。